

ホールで生の演奏を聴いてほしい
耳と身体で体感することが
演奏で発信する力を育みます

三宅麻美さん

[取材] 堀江昭朗 [撮影] 武藤 章 [取材協力] ヤマハアーティストサービス東京

作曲家の真意をとらえ、その素顔までも表現できるピアニスト、と高い評価を受けている三宅麻美さん。大和市文化創造拠点シリウス「やまと芸術文化ホール・サブホール」でのコンサートシリーズも好評です。ピアニストとして、さらに指導者としてのあり方についてお話しいただきました。

大和市民待望のホールで
新たな響きが年々芽生えるCFX

——2016年にオープンした、やまと芸術文化ホール。ここで毎年「やまとでクラシック」コンサートを開催されています。

私は大和市民ということもあって、オープン当初から開いています。コロナ禍で延期になった回があるので、この5月22日で6回目となります。サブホールは多目的ホールなのですが、後方に向けてせり上がっていく客席との距離感が近く、音楽を体感できるのが特長です。大ホールであるメインホールは1007席で、ピアノシモで弾いても隅々まで音が響き、音楽に集中できるのが魅力。市民待望のホールが想像以上に

すばらしくて、喜んでいきます。

——このハウスピアノはヤマハCFXですね。

実は、CFXについては開発段階の試弾から関わらせていただきました。開発にあたった技術の方々の英知が注ぎ込まれたピアノです。これまでのヤマハの伝統を引き継ぎながら、それらを超えた存在。表現の幅が非常に広く、音像が立体的。ハンマーの反応が良いので、響きに音楽を運んでもらえるような印象があります。音色はクリアでパワーもあり、美しい弱音の流れも汲んでいます。

やまと芸術文化ホールのCFXは毎年弾かせていただいています。年々鳴りが良くなるうえに、響きが芽生えてくる楽しさを味わっています。

——5月22日に開催される『やまとでクラシック』の第6回は、前半が三宅さんのピアノ・ソロ、後半はソプラノの三塚直美さんとの共演です。

この企画のスタート時は私のソロだけで構成したのですが、ゲストをお迎えするようになりました。5月なので、ソロ曲はラフマニノフの《リラの花》を核にしました。ヨーロッパ留学していたときには、リラ（ライラック）が咲き始める

とあちらこちらに見に行っていたんですよ。それと日本人が2人も入賞した昨年秋のシヨパン・コンクールにちなんで、シヨパンの有名曲を。後半で共演する三塚さんはオペラ、オペレッタ、宗教曲も得意とする方。最近声が落ち着いてくれたので、メゾソプラノのレパートリーも取り込みました。クラシックなじみのない人にも楽しんでいただけるよう、プログラム作りには毎回、知恵を絞っています。

——共演ピアノとしてのCFXはいかがですか？

フルオーケストラや弦楽伴奏、また純粋な器楽としての室内楽など多彩な表現ができます。共演する相手によっては音量を抑える必要があるのですが、これもコントロールしやすいです。声やほかの楽器との共演は、発音のあり方や表現の仕方など、毎回勉強にもなっています。

世界に通用する音楽性を養い 演奏をイメージする力を育てたい

——東京藝術大学を卒業後、ベルリンとイタリアに留学され、帰国後の2006年には生誕100年記念の

シヨスタコーヴィチに取り組み、日本人初の《24の前奏曲とフーガ》全曲録音をリリース。2010年からはベートーヴェンに焦点をあて、ピアノ・ソナタ全曲、並行して室内楽作品を組み合わせたシリーズを始め、演奏されました。

シヨスタコーヴィチは、自分の個性を打ち出したいという気持ちもあって挑戦しました。お陰さまで好評をいただきましたが「シヨスタコーヴィチしか弾かない」ということではないですし、指導をしているなかで演奏のあり方を見せてきたベートーヴェンに取り組むことにしました。思い返せば、シヨスタコーヴィチは混乱した社会状況のもと、ベートー



ヤマハ
CFX
使用

Concert Information

やまとでクラシック2022 〈第6回〉

三宅麻美(ピアノ)
ゲスト:三塚直美(ソプラノ)

5月22日(日) 大和市文化創造拠点シリウス
やまと芸術文化ホール サブホール
開演 18:00(開場 17:30)
全席自由 2,500円 学生・65歳以上 2,000円
小学生 1,000円

グリーグ: 抒情小曲集より《春に寄す》《蝶々》
ラフマニノフ: エレジー、プレリュード「鐘」、リラの花
ショパン: 軍隊ポロネーズ、幻想ポロネーズ
モーツァルト: 《フィガロの結婚》より
「恋はどんなものかしら」
ドヴォルザーク: 我が母の教えたまし歌
プッチーニ: 《ジャンニ・スキッキ》より「私のお父さん」
ビゼー: 《カルメン》より「ハバナラ」ほか

お問合せ クラシックネットワーク
046-293-7315
yamato@classicus.jp

Profile

三宅麻美(みやけ・まみ)

5歳よりピアノを始める。東京藝術大学、ドイツ国立ベルリン芸術大学、同大学院、イタリア・イモラ国際ピアノアカデミー卒業。第36回全日本学生音楽コンクール小学生の部 全国大会第1位、第48回ヴィオッティ国際音楽コンクール第4位、第1回ガンドルフィ国際ピアノコンクール第2位及び特別賞、第2回堺国際ピアノコンクール第3位、第25回バルマード国際音楽コンクール最高位、第9回TIM国際音楽コンクール第2位にそれぞれ入賞。ベルリン芸術大学在学中、ベルリン交響楽団のソリストとしてベルリン・フィルハーモニーホールにおける定期演奏会に毎年出演。ドイツ国営放送SFBにてラジオ録音、放送。第20回 ラロックダンテロン国際ピアノフェスティヴァル、その他ドイツ、イタリア各地でリサイタルを行い、国家演奏家資格取得。帰国後の2001年には王子ホールにおけるデビューリサイタルで好評を博す。以来、音楽祭への出演や毎年のソリサイタルをはじめ、オーケストラとの共演も多く、国内外でソリスト及び室内楽奏者として精力的な演奏活動を続けている。2006年には生誕100年を記念して「三宅麻美 ショスタコヴィチ・シリーズ」を開催、2008年にはレグススレーベルより日本人初のショスタコヴィチ《24の前奏曲とフーガ》全集CDを発売。2013年にはN響メンバーとのベートーヴェン室内楽シリーズ(全ピアノ・トリオ、ヴァイオリン・ソナタ、チェロ・ソナタ)を完成。2017年にベートーヴェン・ピアノソナタ全曲演奏会を完成し、最終回は同年の「音楽評論家・記者が選ぶコンサート・ベストテン 2018」(月刊『音楽の友』誌)に選出される。2016年より神奈川・大和にて「やまとでクラシック」をスタートし、地域の方々にも親しまれる演奏会を企画、出演している。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校講師を経て、現在は洗足学園音楽大学で教鞭をとる。日本演奏家コンクール、かながわ音楽コンクール、ヤマハジュニアピアノコンクールなどコンクール審査にも多数携わる。公式ウェブサイト <https://mamimiyake.jp>



ヴェンは自身にハンディを抱えた状態、と困難な中で自分の使命である音楽を追求していった点では、似ていますね。苦悩のみ込みながら、そこから抜け出す力を弾く人にも聴く人にも与えてくれる音楽だと思っています。自分の中で、ベートーヴェンに触れていると、とくにベートーヴェンに惹かれていると、私の命が耕される気がします。私の中で、ベートーヴェンが切り拓いたロマン派という視点が生まれたので、一昨年からロマン派のシリーズに新たに

取り組んでいます。——三宅さんは洗足学園音楽大学などで後進の指導にもあたっています。音大生のほか、ピアノの手ほどきから熟年の方まで幅広い世代の方を教えてください。歌心を持つ方、まろやかな音の人、強い響きを持った方、和声に敏感な人など、本当に個性豊か。その個性をしっかりと把握し、それを伸ばしてあげたいと思っています。指の使い方などテクニックだけでなく、和声のあり方や曲の構成の分析ができるようにサポートしつつ、世界に通用する音楽性を養っていただきたいと思っています。

私は生徒さんの前で演奏するようにし

ています。「こうあるべき」という意味ではなく、「私ならこう弾く」ことを示し、生徒さんに自分自身のあり方を考えていただくたいからです。演奏をイメージする力を育てたいと思っています。現代はネットで良い演奏をたくさん聴くことができますが、ぜひ「生」の演奏を聴く機会を作ってほしいと思います。ホールでは空間の響きも含めて「体感」することができ、耳だけでなく、音の振動を身体で感じることもできますよね。こうした体験は五感を育てることもなっています。また、演奏で「発信する力」を育てることもつながると思います。